

患者向け説明書：髄膜炎菌予防ワクチン この説明書は、髄膜炎菌ワクチン接種を受ける方に必要な情報をまとめたものです。接種前に必ずご確認ください。

髄膜炎菌感染症とは

- **原因**: 髄膜炎菌 (*Neisseria meningitidis*) による感染症。
- **感染経路**: 飛沫感染 (咳やくしゃみ)、濃厚接触。
- **症状**: 突然の発熱、頭痛、嘔吐、首の硬直、意識障害。進行が非常に速く、敗血症を伴うこともあります。
- **重症度**: 致死率は 10~20% と高く、回復しても難聴や神経障害などの後遺症が残ることがあります。

ワクチンの特徴

- **種類**:
 - 多糖体ワクチン (古いタイプ、免疫持続が短い)。
 - コンジュゲートワクチン (現在主流、免疫持続が長く、乳幼児にも有効)。
- **対象血清型**: A、C、W、Y 型をカバーする 4 価ワクチンが一般的。B 型に対応するワクチンもあります。
- **効果**: 発症予防と流行抑制に有効。

接種スケジュール

- **小児・青年**: 生後 2 か月から接種可能。通常は 1 回接種、必要に応じて追加接種。
- **成人**: 流行地域渡航者や医療従事者などは 1 回接種。
- **留学・渡航者**: 米国や欧州の大学入学時、またはサウジアラビア巡礼 (ハッジ) 参加者は接種が義務付けられる場合があります。

副反応について

- **よくある副反応**: 注射部位の痛み、発赤、腫れ。
- **全身反応**: 発熱、倦怠感、頭痛。
- **まれな副反応**: 強いアレルギー反応 (アナフィラキシー)。

接種が推奨される方

- 髄膜炎菌感染症の流行地域へ渡航する方。
- 学生寮や軍隊など集団生活を始める青年。
- 医療従事者や研究者など、髄膜炎菌に接触する可能性がある方。
- 免疫不全の方 (脾臓摘出後など)。

接種前の注意

- 発熱や体調不良がある場合は接種を延期することがあります。
- 過去にワクチンで強い副反応があった場合は必ず医師に伝えてください。
- 妊娠中・授乳中の方は医師に相談してください。

接種後の注意

- 接種当日は激しい運動や飲酒を控えてください。

- 注射部位の腫れや痛みは数日で改善することが多いです。
- 強い症状が続く場合は速やかに医師へ相談してください。

🌟 まとめ

髄膜炎菌感染症は急速に進行し、致死率や後遺症のリスクが高い感染症です。ワクチン接種により予防が可能であり、特に流行地域への渡航者や集団生活を始める青年には強く推奨されます。

この説明書は一般的な情報です。詳細は必ず医師・医療機関にご相談ください。

副反応確認のため、接種後 20 分間体調確認をさせていただきます。

帰宅後、体調の変化などがございましたら下記にお問い合わせ下さい。

秋田赤十字病院 電話 018-829-5000(代表)

平日(8:30-16:30)は予防接種センターでの対応、それ以外の時間帯は救急外来での対応となります。